

リハケアNEWS

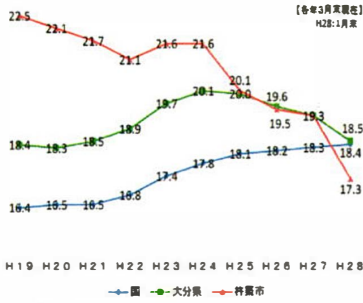
Izumo Reha Care Net Newsletter



出雲リハケアネット事務局

〒160-0006 出雲リハケアネット事務局 Tel/0853-21-2733 Fax/0853-24-2906

介護認定率の推移



概要(平成28年3月末現在)

- (1) 面積 ... 280.08km²
- (2) 人口 ... 30,486人
- (3) 世帯数 ... 13,513世帯
- (4) 高齢者数 ... 10,545人
- (5) 高齢化率 ... 34.68%
- (6) 要介護認定者数 ... 1,788人
- (7) 要介護認定率 ... 17.0%
- (8) ひとり親世帯 ... 266世帯
- (9) 生活保護世帯 ... 318世帯

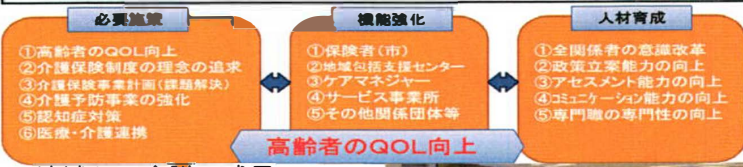
杵築市

「いつまでこんな会議やっているんだ!」福祉推進課長江藤さん(コピーネーター)の厳しい叱責に場が凍り付きます。杵築の地域ケア会議は真剣勝負の場、利用者のニーズの取り違えは許されません。

江藤さんは語ります。「ケア会議でケアマネの判断が正しいとは限らない。今回の事例のミスマッチは認知症要介護の利用者に対してデイケア週3日で日曜サービスなしになっていること。」

杵築市地域ケア会議の概要

- 個別ケースの課題解決からネットワークの構築、地域課題の発見、社会資源の整備、政策形成
- 平成24年2月から実施。毎週水曜日の午前中
- 参加者：保険者(計画担当者)、地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険事業所、助産者：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、保健師
- 対象事例：介護予防給付・介護給付(福祉用具、住宅改修、例外給付)・地域密着型サービス、困難事例・介護予防・日常生活支援総合事業



地域ケア会議の成果

- ① 要介護認定者の改善率向上
- ② 要介護認定率の低下
- ③ 介護保険給付費の上昇抑制
- ④ 介護保険料の据え置き
- ⑤ 要支援者の地域支援事業への円滑な移行

地域ケア会議を開催することで地域包括ケアシステム構築に必要な施策の展開が可能となり介護保険制度持続可能性の確保につながった



出雲リハケアネット 杵築市地域ケア会議を視察

2月13日～15日、出雲リハケアネットは地域ケア会議を見学するため先進地大分県に6名の視察団を派遣しました。

大分県の「地域ケア会議」導入の背景にあるのは高齢化の進行により要介護認定率があがり財政的に介護保険の存続が危ぶまれる事態に直面したことにあります。大分県は介護保険の基本理念に立ち返り自立支援をするために埼玉の和光市をモデルに「地域ケア会議」をケアプランの実行・評価・見直しの場として機能強化し人材育成の場として位置づけました。大分の中でも最もアグレッシブな運営が特徴の杵築市の「地域ケア会議」を視察しました。

事業者に合わせたケアプランになっていくが利用者の状況に合わせたプランにしなければならない。認知症要介護の方はたくさんいる。完治しなくても在宅で暮らし続けることができればどのようなサービスか。今回は奥さんが元気になれば主人も元気になるケースだった。ケア会議の助言者は重要。この後電話するけど助言者を派遣した県作業療法士協会はまたアウトです。「杵築市視察において、印象深かったことは、多職種協働の重要性と専門職による助言の責任の重さ、今後の高齢者支援において介護予防や総合事業、受け皿の確保が大切であるということ。大分県は「地域ケア会議」の先進県ではあります。歩んできた道は決して平坦では無く様々な困難を関係者達が助け合いながら一つ一つ乗り越えてこられたとのこと。やはりそこには保険者である行政の強力なリーダーシップがあつてこそです。大分モデルをそのまま出雲で実践するには大変なパワーが必要です。しかしながら助言者の派遣をはじめ「地域ケア会議」でリハケアネットが力を発揮できる部分は充分であると確信しました。

大分の先進性は質の高い人材育成にあった!



リハケア事務局から4名、出雲市医療介護連携室から2名参加

1 日時	平成 29 年 2 月 13 日(月) ~ 2 月 15 日(水)
2 場所	大分県(大分市、杵築市)
3 会議・研修・学会名	大分県地域ケア会議等 先進地視察
4 内容	交流会、デイサービスセンター・県報告会・地域ケア会議視察
	13日(月) 19:00~ 交流会(大分県理学療法士協会 理事 他)
	14日(火) 10:00~11:30 『デイサービスセンター・楽』視察 佐藤孝臣OT 他
	13:15 ~16:30 『自立支援ヘルパー育成事業報告会』視察
	市町村介護予防強化推進事業の取組み報告(6事例+自治体報告)
	『これからの介護予防ケアマネジメントの実践について』 佐藤孝臣OT
	15日(水) 9:00~11:45 『地域ケア会議(3事例)』視察・意見交換 杵築市
	大分県杵築市福祉推進課 江藤修課長 他



視察二日川は「リハビリの始まりは諦めないこと、高齢者も筋力アップできる」をスローガンに自立支援型のデイサービスを提供する「デイサービス楽」を見学しました。

普通のデイサービスはお風呂などの生活支援サービスやレクリエーションがメインですが支援する役割が求められる中、「デイサービス楽」は歩く、立つなどの基本動作を支えるリハビリに特化しています。代表の佐藤孝臣氏は作業療法士でかつて勤務していた医療機関でリハビリをしても退院後は再びADLが落ちていく高齢者を沢山みて「それだそう。そこでお世話型の介護ではなく「機能の維持や向上につながる運動に力を入れている」とのこと。たしかに「楽」はバリアフリーにはなっておりず「トイレに手すりすら無く原則、車いすを使わないのでリフト車は一台もありませんでした。実際の生活環境を想定しているとはいえ驚きです。訓練は日常の様子を細かく聞き取り必要な筋肉を鍛え毎回、歩行や片足立ちのタイム、握力などを測定して運動機能を評価する本格的なリハビリでこれで結果が出ないわけがありません。昨年度は介護度が重度化した利用者は7%にとどまり、22%が軽度化したそうです。また、近

所で散歩できるようにしたい」とか「孫の結構式に出席したい」など目標や課題を明確にすることでモチベーションを引き上げておられることも先進的でした。また、看護師や栄養士がチームとしてバックアップしているので安心です。ただし今の介護保険制度の中では利用者が改善すると報酬が低くなるので経営は火の車、介護保険以外の有料研修会などでやりくりされています。しかしながら信念をもって自立支援に取り組んでおられる佐藤さんを応援する仲間は多数。もはや大分の地域包括ケアのカリスマリーダーです。

「楽」見学後に参加した「平成28年度自立支援ヘルパー育成事業報告会」では佐藤氏が指導して「それだヘルパー達がセラピストレベルの実践報告をされました。専門職をつまく介入させながら本人家族との合意形成、地域ケア会議の活用、本人の意欲維持のモニタリングなど質が違いました。大分県が実績を出せたわけは4年に及ぶ人材育成の成果に他なりません。また、ユミの代わりに利用者・家族・サービス担当者を含めたたれでもわかる〇×式の「生活行為評価表」の活用が徹底し表の中で予測測られているのも感じました。リハケアでもユミ普及を急ぐべきと感じました。